

工事事故防止行動計画 ニュースレター

工事事故「0」を目指して

2020.2.28

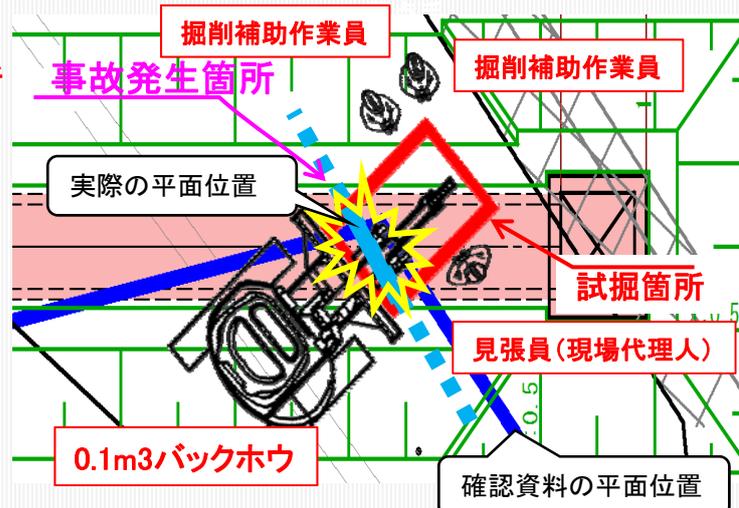
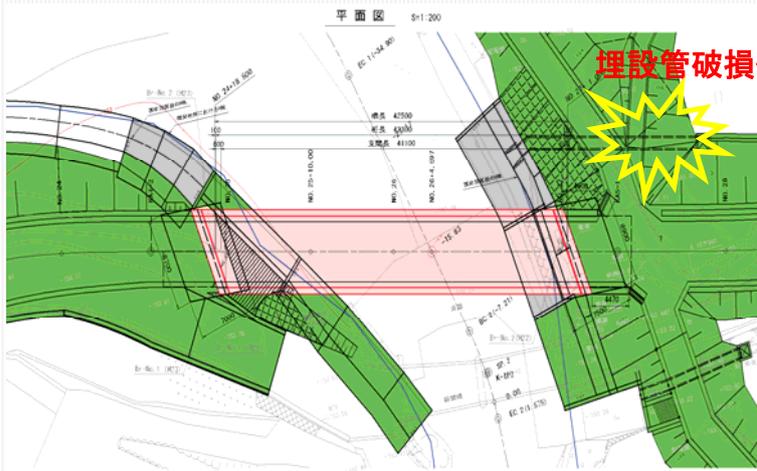
20号

橋梁関連工事における埋設管破損事故！

【令和2年1月29日事故発生】

【被害】

・水道管損傷 ⇒ ・断水 3戸 ⇒ ・工事中断 9日間
 ・断水 2時間 ⇒ ・公衆災害(物損)で「減点」



事故直後(水道管破損・漏水状況)



水道管破損・切断撤去



水道管破損箇所

●事故概要

橋梁関連工事で流末付属工(ボックスカルバート)施工に先立ち、水道管の埋設位置確認のため試掘中、バックホウのバケットで水道管を破損した。

●事故原因

埋設物が確認資料の位置とずれており、明示されている深さよりも浅い位置に埋設されていたため、バックホウのバケットで管を破損してしまった。

●問題点

・埋設物の位置情報が不正確であった。
 ・試掘を手掘りで行うよう指示されていたが、試掘箇所の表面部が固く、人力施工が困難であったため、機械施工を行い、表面部の固い部分を撤去した後も想定埋設深さを疑うことなく、機械施工を続けた。

●再発防止策

【再発防止策】は、裏面参照⇒

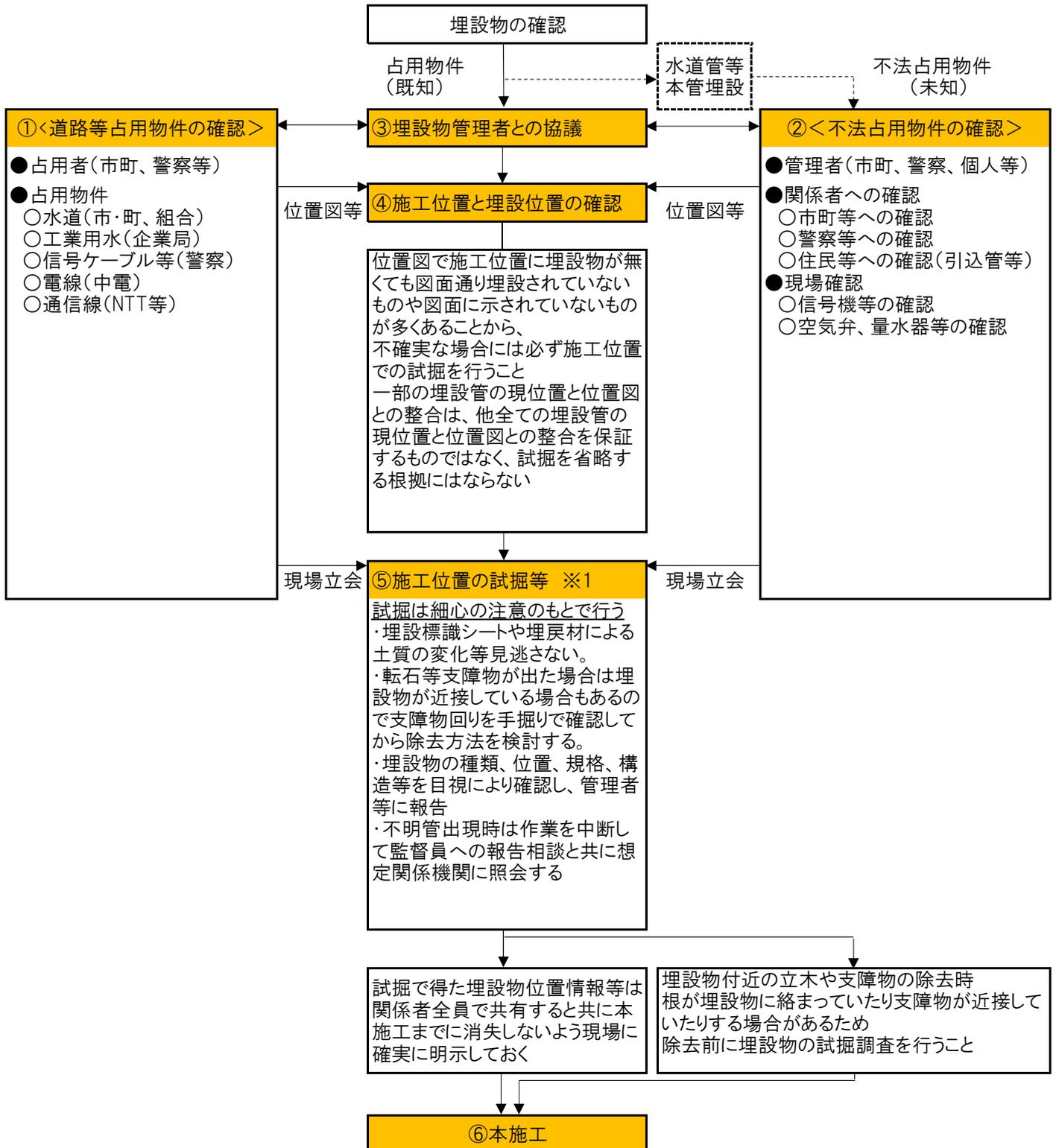
交通基盤部 土木工事 事故発生件数	事故分類	工事関係者(死亡)	工事関係者(傷害)	第三者(傷害)	第三者(物損)	工事事故合計	令和2年 1月末現在 (前年同期)
	件数	1件(0)	3件(2)	0件(2)	22件(27)	26件(31)	

＜再発防止策＞

【本事故の再発防止策】

- ①埋設位置の情報は、当時の施工業者等への聞き取りや現場での調査を通じて、確実な把握に努める。
- ②今回、固結部分撤去後は、手掘りに切り替えて掘削を行うべきであったが、同様の事態を避けるためには、地表等が固く人力施工が困難な場合は、掘削位置の変更を検討し、人力施工できる箇所での施工を基本とし、機械施工は原則として行わない。
やむを得ず機械施工せざるを得ない場合は、施設管理者、監督員と協議の上、機械施工の必要性の検証を含めた施工方法や施工範囲等を検討する。
- ③埋設位置が想定と異なるケース等、万が一の事態を想定しながら作業を行う。
埋設管掘削は、必ず施設管理者立会のもとで行う。

道路等施工(掘削、杭打等)時の埋設物事故防止のための埋設物確認フロー(Ver.5)



本ニュースレターの事案について、上記の埋設物確認フローで手順を確認すると⑤の対応が適切に行われなかったため、事故につながった。